

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2016年 1月 25日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	北京大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/> 1.研究職 <input type="checkbox"/> 2.専門職(医師・法曹・会計士等) <input type="checkbox"/> 3.公務員 <input type="checkbox"/> 4.非営利団体 <input type="radio"/> 5.民間企業(業界:金融) <input type="checkbox"/> 6.起業 <input type="checkbox"/> 7.その他()			
派遣先大学の概要			
1898年に創立された中国の首都である北京に位置する大学です。およそ14,000人の学部生が所属しており、ライバル校である清華大学よりも文系科目が強いとされている。			
留学した動機			
第二外国語で中国語を選択していたこともあり、中国に留学に行きたいと思っていました。北京大学と清華大学で迷っていたのですが、叔父が北京大学を卒業しており推薦してくれたこともあり最終的に北京大学にしました。			
留学の時期など			
①留学前の本学での修学状況:	2015年	学部4	年生の S2 学期まで履修
②留学中の学籍:	留学		
③留学期間等:	2015年	9月～	2016年 1月
	学部4	年時に出発	
④留学後の授業履修:	2016年	学部4	年生の W 学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2015年	学部4	年生の 1月頃に 行った
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位		90 単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位		0 単位
	留学後の取得(予定)単位		90 単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2012年	4月入学	2016年 3月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	4年		0ヶ月間
⑨留学時期を決めた理由:			
大学に入学した時から留学に行きたかったのですが、課外活動や就職活動の関係でタイミングを逃し続け、それらの活動がひと段落し、また卒業単位も取り終えた比較的に時間に余裕のある4年生の冬学期に留学に行くことに決めました。			
留学の準備			
①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)			

北京大学の場合、留学先大学の手続きは簡素だったため、東大国際本部への提出書類の方が準備に時間がかかりました。留学が決まってからは、寮に関する事など先方とメールでやりとりをしました。またTutors & Buddy Programというのがあり、気軽に現地の学生に相談できるプログラムがありました。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

私は1学期間のみの留学だったので、X2という入国が1度のみ可能な180日間滞在できるビザを入手しました。受け入れが決まると先方からAdmission Notificationと共にビザの申請書類が届くので、それをもって7月中旬に六本木にある中国大使館に行きました。1時間あれば大丈夫だと思いますが、とてもこんでいる日もあるので時間に余裕をもって行った方がいいと思います。通常であれば約1週間で発行されますが、追加でお金を払えばより早く発行されるようです。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

北京大学の場合、半年のみの留学生は健康診断を受ける必要がなかったのですが、念のため保健センターで書類を印刷してもらい持って行きました。私は結局提出はしなかったのですが、1年滞在予定の人は健康診断が必須のようでした。常備薬は飲みなれたものをいくつか持参しました。留学中に何度か体調を崩したので、常備薬を持参するのは大事だと思います。予防接種は特に受けませんでした。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

学校側から加入を指定された保険(東京海上日動火災保険の海外保険)に加入しました。また、OSSAMという安全確認を主に行っているオンラインサービスにも加入しました。両方とも留学に行くためには加入が必須でした。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

経済学部で特別に行った手続きはゼミの単位分割申請のみでした。論文提出に関してなのですが、1月18日に終わる留学プログラムだったので、執筆自体は指導教官との相談になるのですが、学部への正規での卒業論文提出は認められないので注意が必要です。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

私の翌年からHSK6級が必須になったようなのですが、私が申請した時はTOEFLiBTのスコアのみでの提出が可能でした。しかし、やはり最低限HSK6級を取得しておくべきだったなと思います。学部の授業を受けていた友人達はHSK6級を持っていてもかなり苦労していました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

基本的に値段が若干高くはなりますが、北京でなんでも手に入ります。常備薬やこだわりのある日用製品は持参した方が良いでしょう。PM2.5対応のマスクだけは中国の方が性能がよいので、現地で購入することをお勧めします。携帯電話や銀行口座など細々した準備が出发直前に出てくるので、出来ることから余裕を持って準備することをお勧めします。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)
※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位認定の申請	授業科目名	単位認定の申請
汉语 冲刺2			
口语 中口3			
视听说2			

正音2			
International Security Theory and Practice			
②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)			
<p>汉语、口語、視听说の授業は1章を1週間かけて学びました。本文の予習、新単語のクイズ(听写)、文法の練習問題、作文、グループプレゼン、本文に関連する議題についての討論など様々な課題がありました。International Security Theory and Practiceでは教授が事前に配布する40ページほどの英語資料×2~3つを毎週予習してから授業にのぞみました。</p>			
③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など			
<p>ほとんどの授業が1時間1単位換算で、正式な成績証明書を取得するためには最低でも1週間に18時間分の授業を履修することが求められます。私の場合は1週間に23時間分の授業を履修しており、平日は課題に集中し休日に観光に行くことが多かったです。</p>			
④学習・研究面でのアドバイス			
<p>クラスメイトとのグループワークが多く、時間を合わさなければならないのが少し大変でした。個人で出来る課題とグループ課題の時間配分を意識すると思います。</p>			
⑤語学面での苦労・アドバイス等			
<p>中国語での語学ではない授業の履修が認められていなかったため、授業においては語学面でもものすごく苦労したという事はなかったです。しかし、普段の生活ではとても簡単な中国語でさえも、北京アクセントが強いせいか上手く聞き取れなかったりして慣れるまでは苦労しました。</p>			
生活について			
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)			
<p>勺園(ShaoYuan)6号楼という構内にある留学生寮に住んでいました。新築であったので、きれいで、セキュリティーもしっかりしておりとてもよかったです。寮というよりはホテルのような感じでした。ルームメイト1人とトイレ・シャワー及び共同スペース(冷蔵庫、机、椅子×2)を一緒に使い、更に各々個室がありました。個室には勉強机、ベッド、押し入れの様な服を収納できる家具がありました。家賃は一泊140円で、留学先からメールで宿の紹介があったので、簡単な書類を添付したメールを返信し確保しました。</p>			
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)			
<p>大学構内に位置しており、食堂及びスーパーから近く生活にとっても便利でした。普段の食事は構内に沢山ある食堂で食べていました。お金は最初に10万円ほど現金で持っていき、中国の銀行口座をひらいてから海外送金でお金を送ってもらいました。銀行のキャッシュカードがそのままデビットカードとしても使用できるので、それを使っていました。クレジットカードは海外にも対応している日本の持っていきましたが、一度も使用しませんでした。</p>			
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)			
<p>大学構内は安全(入構時に学生証を提示しなければならない)なのですが、構外は遅い時間には出歩かないようにしました。友人も私自身も危ないめにあつたわけではないので、治安は悪くないと思うのですが、気を付けるにこしたことはないと思います。医療機関は日本語が通じる病院がいくつかあるので、それらを利用していました。12月に入り気温が低くなり大気汚染もひどくなると、一気に体調を崩す人が増えたので、健康管理には十分に気を付けた方がいいと思います。私もかなり体調を崩し、辛い思いをしました。</p>			
④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)			
・毎月の生活費とその内訳			

<p>宿舎費84,000円、食費約30,000円、交通費約5,000円、旅行費(4カ月半で)10万円など 月約140,000円</p>
<p>・留学に要した費用総額とその内訳</p>
<p>月々の生活費630,000円＋渡航費60,000円など 約700,000円</p>
<p>⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)</p>
<p>東大を通じて申請する奨学金を月6万円頂いていました。</p>
<p>⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)</p>
<p>閃雷というダンスサークルに所属していました。 長期休暇や週末を利用して、西安や上海(杭州)などに旅行に行きました。</p>
<p>派遣先大学の環境について</p>
<p>①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)</p>
<p>留学生のサポートオフィスがあり、手続き面でのサポートを得ることができました。また、様々な団体を通じてランゲージパートナーを探すことができ、語学面でのサポートも受けられます。</p>
<p>②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)</p>
<p>図書館:とても大きく立派な建物の図書館があります。朝早くから夜遅くまで空いており、勉強スペースも充実しています。また、パソコンも使用できます。 印刷やスキャンに関しては構内にいくつかある印刷屋さんでUSBなどでデータを持っていき、印刷してもらいます。 食堂:学内にいくつかあり、それぞれ営業時間が異なります。 スポーツ施設:構内に2つのジムがあり、通っている留学生は多かったです。</p>
<p>留学と就職活動について</p>
<p>①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど</p>
<p>就職活動を終えてからの留学だったので、留学が就職活動に与えた影響というのは特にありませんでした。強いて言うのであれば、内定式に出席できなかったことや、内定先に提出する書類などを入手するのが少し大変だったことがデメリットとして挙げられます。逆に内定先の北京オフィスにお伺いすることができたりといったメリットもありました。</p>
<p>②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響</p>
<p>N/A</p>
<p>③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)</p>
<p>N/A</p>
<p>④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください</p>

<input type="checkbox"/> 1.研究職 <input type="checkbox"/> 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) <input type="checkbox"/> 3.公的機関(機関名:) <input type="checkbox"/> 4.非営利団体(団体名又は分野:) <input type="checkbox"/> 5.民間企業(企業名又は業界: 金融) <input type="checkbox"/> 6.起業(分野:) <input type="checkbox"/> 7.その他()
留学を振り返って
①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
<p>授業内容以上に得たものは多いと感じます。まず何よりも視野が広がったと思います。世界各国から集まった学生と話し合ったり、討論するうちに、考えたこともなかったとても刺激的な意見や気づきを得ることができました。また、留学中に内定先の北京オフィスに訪問したりすることで、就職してからも世界で活躍したいという思いがより一層強まりました。今回の留学を通じて、異国でも生活していけるという自信がついたと思います。</p>
②留学後の予定
<p>3月に卒業し、4月から働きます。</p>
③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
<p>授業だけが留学なのではなく、普段の何気ない生活から得られる経験も留学ならではの貴重な体験だと思います。今しか得られないものがたくさんあるので、迷っているのであればぜひ行くべきです。心配ごとも多いかと思いますが、そういう時は私を含め留学経験者に相談すると良いと思います。気軽に連絡ください！</p>
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
<p>「地球の歩き方」は色々な情報がまとめられているのでおすすめです。学校のウェブサイトも活用しました。それ以外は友人や友人の友人など、知り合いから得られる情報を重宝しました。</p>
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2016年 2月 23日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	北京大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
(○)1.研究職 ()2.専門職(医師・法曹・会計士等) ()3.公務員 ()4.非営利団体 (○)5.民間企業(業界:) ()6.起業 ()7.その他()			

派遣先大学の概要

中国・北京に位置する総合大学。近接する清華大学と中国トップの座を争い続けており、中国、そしてアジアを代表する大学の一つである。

留学した動機

中国には以前からゆかりがあり、北京大学に行きたいという思いがあったこと。また、留学先では経済以外の分野についても積極的に履修できるため、新しい視野を求めて。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2015年	学部3	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2015年	9月～		2016年	1月
	学部3	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2016年	学部4	年生の	S1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2016年	学部3	年生の	3月頃に	行う予定
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位				60単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位				14単位
	留学後の取得(予定)単位				74単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2013年	4月入学		2017年	3月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	4年		ヶ月間		

⑨留学時期を決めた理由:

全学交換留学の対象が学部3年以上であること、また、半年の留学であればたとえ単位が認定されなくとも4年で卒業できると考えたため。学部4年夏まで待つと進路がほとんど決まってしまうため、早い時期に行きたいと考えていた。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

基本的にはネットで申請を行う形となる。参考資料として前年度用の申請マニュアルをいただいたが、多少変更されていた。以下の多くの内容にも共通することとして、北京大学側のルールはしばしば変更があるため、体験談を鵜呑みにせず絶対に現地で確認をすること。(北京大学関係者であってもその部門に直接関わる人でない限り把握していないケースが多々あった。)
基本的に難しいことはないと思うが、一点だけ注意として、学生証の写真はネット申請時に提出する写真で決まってしまうため、気になる人はちゃんとした写真を提出すること。(事前に送られてきた資料では現地に着いてから学生証用の写真を提出となっていたため、今年どうなるかは不明。)

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

北京大学に限らず、中国であればどの大学でも共通であると思われるが、半年以下の留学の場合はX2ビザ、半年以上のビザはX1ビザとなる。基本的には各大学からの入学許可証などとビザ申請書類を中国大使館に提出する形で、申請後数日でビザが下りる。
なお、ビザ申請に際して指定された様式の健康診断書が求められるという資料があるが、大使館および現地で確認したところ、健康診断は現地についてからで問題ないとのこと。日本でビザ申請時には不要であり、日本で行うと非常に割高になり、数万円かかるため、現地到着後に行うほうが良い。
北京大学の場合、現地到着後にまとめて健康診断を手配してもらえる。また、一学期のみの留学であればそもそも健康診断は不要であった。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

上記の通り、手続き上出発前の健康診断は不要であるが、出発前に治療すべき病気がある場合はやはり治してから出発するほうが良いと思われる。特段予防接種などはなし。薬は大概のものは手に入るが、日本の薬とはやはり異なるため、使い慣れたものがあれば持参したほうが良いかもしれない。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東京大学側で求められる保険に加入。一学期間のみの留学であればそれのみで問題ないが、一年間の留学の場合、北京大学側が指定する保険にも加入する必要がある(年間300円)。一学期間の場合でも保険に加入していることを証明する用紙を提出する必要があるはずなのだが、送られてきたものの現地で提出が求められることはなかった。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

経済学部の場合、書類選考のみであった(が、今年から面接が行われるようになったという話も聞く)。ゼミに参加している場合はゼミの単位分割申請を行うことになる。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

ニアネイティブなので特に語学学習をすることはなかったが、意識して多めに中国語を話すようにはしていた。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

上記の常備薬のほか、冬場はどうしても大気汚染や空気の乾燥が気になるため、それらの対策は持って行ってもいいかもしれない(どうせ着けるのであれば、マスクだけは現地でフィルター付きのものを購入したほうが良い)。文房具なども使い慣れたものを持っていくと便利。
ただし、基本的に大概のものは現地調達可能であり、またネットショッピングが非常に普及しているため、日本から持参しないと困る、というものはあまりない。日本語の書籍・参考書などはさすがに調達しづらいとは思いますが…

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)
※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
中国政治概論	3	●	中国古代文化	2	

中国外交関係史	3 ●	民俗学	2
香港マカオ概論	3 ●		
東北アジア政治、経済、外交	3 ●		
日本及び日本人論	2 ●		
②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)			
<p>自分が多く履修した国際関係学院の授業ではいわゆる大教室のスタイルでの授業が多かったが、全体的には少人数授業も少なからずあるように思う。いわゆる討論の形を常に取り授業はあまり見られなかったが、学生が全般的に積極的であり、その意味で自然と双方向の授業が成り立っているように感じられる(もちろん先生・学生ごとに個人差は大きいが)。</p> <p>授業後には常に学生からの拍手が上がるなど、先生と学生の間の距離がより近いように感じられる。かなり学部ごとに偏ってはいるものの日本人を含めて留学生は多い。個人的な話では、中国政治概論の授業において中間レポートが認められて発表を行うよう指名されたことが印象的である。</p>			
③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など			
<p>7科目18単位。一コマ50分の授業を週に単位数だけ行う。基本的には2時間授業が多い(国際関係学院の授業は3時間)。授業時間は朝8時から夜9時30分までの11コマ。</p>			
④学習・研究面でのアドバイス			
<p>北京大学では本来他学部履修に対して厳しい制約があるのだが、この年の留学生からは特定の学部には所属しない代わりにほとんどの学部の授業を履修することができるようになったため、各自の興味に合わせて履修することができる。</p> <p>一日当たりのコマ数が11もあるため、時間割表を組んでみると余裕があるように思えるが、無理のないように計画するほうが良い。</p> <p>授業以外には図書館などで自習を行ったが、図書館の自習スペースはかなりあるといっても試験前にはびっしり埋まってしまう。自習スペースそのものは至る所にある。</p>			
⑤語学面での苦労・アドバイス等			
<p>留学中に語学面で一番苦労するのはレポートになると思うが、北京大生の知り合いを作って添削してもらう人が多かった。北京大生は非常に熱心であり、レポートの添削をお願いすれば文法だけでなく、その内容や論理性についても意見を言ってくれる人も多い(甘えるのはよくないけれども)。学習面に限らず、本当に熱心に助けてくれる。</p> <p>また、授業に関して言えば、各授業のキーワードが聞き取れないと苦労するので、その予習はしたほうが良いかもしれない。</p>			
生活について			
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)			
<p>親戚の家に居候させてもらったため、あまり参考になることは書けないのだが、北京大学から薦められる宿舎は新築できれいな代わりにかなり割高(月間4000元ほど)であり、現地に着いてから外に引っ越した、というようなケースも聞く。また、北京大学には他にもいくつか宿舎があるのだが、すぐに埋まってしまうことに注意。</p> <p>大学宿舎は校内、ないし隣接した場所にあるため非常に便利ではある。</p>			
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)			
<p>夏は東京と同じくらいであるが、冬場はかなり寒い(-10°C前後)。なにより空気が乾燥している。大気汚染は冬場に顕著だが、常にスモッグがかかっているというよりは、かかる日とかからない日がかかなり極端。大学内がちょっとした町ようになっており、最低限のことは大学内でも解決できる。バス・地下鉄ともに大学に隣接した場所から乗車できるため交通はかなり便利、日本と比べれば交通費はかなり安い。</p> <p>食事は至る所にレストランや屋台があるほか、出前も盛ん(安くても配達してくれることが多い)。ただし、値段と衛生状況(と味)はピンキリとしか言いようがない。</p> <p>近年の中国ではアプリによる電子決済が非常に盛んなため、現地銀行で口座を開設すると便利。</p>			
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)			

よくスリが多いと言われ、実際多いとは思いますが、ある程度気を付けていれば少なくとも北京の街中では問題はあまりないと思われる。人気のないところや暗いところに行かないという当たり前の点は守るべき。ただし、自転車などの盗難はよく聞くので、短い間でも油断せずしっかり施錠すること。 中国の病院は非常に混雑するのだが、保険の関係で指定されている病院はそれほどでもないようである（実際にかかっているわけではないので具体的なことはわからない）。 鼻やのどからの風邪には注意。
④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
・毎月の生活費とその内訳
食費:4万円 交通費:5千円(以下) 加えてその他諸々。 学校の食堂で3食済ませるような生活であれば食費は非常に安くなり、逆に外食が増えると食費もかなり上がる。食事に関して言えば出前も盛んで、安くても配送してくれるところも多い。 生活費は個人差が大きい部分なのでなんとも言えないが、なんでもかんでも安いということはなく、むしろ物価水準は日本に近づいていると思う。極端に切り詰めればまだまだかなり安く生活することもできると思うが。
・留学に要した費用総額とその内訳
上記のほかに留学生向けの長期往復航空券が8万円前後。片道航空券はおよそ4万円前後。 中国では交通運賃が比較的安く、週末などに旅行に行く機会も多くなるため、意外と支出は多い。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSO・6万円。Go Globalサイトより。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
日中友好系のサークルに参加したほか、旅行などに出かけた。 サークルは学期が始まってしばらくすると一斉に募集をかける期間がある。また、サークルに加入せずとも参加できる活動は数多いが、ほとんど募集もなくひっそりやっているものも多いため、自分から情報を探していくことを心掛けたほうが良い(これは課外活動に限らず、普段の授業や生活そのものにおいても)。
派遣先大学の環境について
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
留学生事務所は基本的に留学前と留学後の事務を担当していて、留学期間中は各学部の教務課が担当しているはずなのだが、留学生はどこか特定の学部には所属しない形になったため、事務的な手続きをどこにお願いすればいいのかわからない点などは現場でもやや混乱しているように思われる。 語学・学習面におけるサポートは基本的に先生次第、ただし留学生向け「対外漢語教育学院」に入らない場合でも、学部によっては留学生向けの授業が用意されていることがある。 日本人学生など日本語が話せる学生はそれなりにいるため、言葉が話せないことによって孤立するようなことはあまりないのではないだろうか。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
図書館:大きな総合図書館と各学部(学院)の図書館がある。 パソコンルーム:総合図書館に併設。 ネット環境:各教室などにWi-Fi設置。 食堂:大小合わせると10か所ほどはあると思われる。また、屋台なども多数。格安なことが多いが、味の当たり外れもかなり大きい。
留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど
②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響
自分の場合、北京での生活に居心地の良さを感じたため、将来的にこの国と関わるような職業に就きたいという思いが強まった。
③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)
自分は特にしていないが、Skypeを通じたインターンの面接を行ったという話を聞く。また、上海キャリアフォーラムというものがあるにはあるのだが、まだまだ小規模である。
④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください
()1.研究職 ()2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) ()3.公的機関(機関名:) ()4.非営利団体(団体名又は分野:) ()5.民間企業(企業名又は業界:) ()6.起業(分野:) ()7.その他()
留学を振り返って
①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
ある先輩が「中国にいと本能的に生きているように感じる」と言っていたが、ある面ではその通りで、些細なことであっても感情を隠さずにストレートに(それも割と強めに)出してくることが多く、慣れないうちは戸惑うこともあったが、慣れてくると自分にとってはむしろ日本よりも開放感を感じる場所であった。いわゆる洗練や清潔を求めたのであれば中国、特に北京は正直向かないかもしれない。逆に「人間的なもの」を求めたとき、中国は一つのいい選択肢になるのではないだろうか。近年の経済成長と引き換えに失われたものがある、というような論調は中国国内でもあるし、日本国内でも聞く話ではあるが、極端な人というのはどこにでもいるもので、ちょっとしたことではおどおどしなくなった、というのも一つの成長なのかもしれない。
②留学後の予定
ひとまずはしっかりと卒業する。
③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
基本的に日本から海外へ行くといろいろなことを不便に感じたり、理不尽に感じたりするものであるという話も聞く。おそらく中国に行けばそのように思うことも多い。しかし、不便と不満は違うのではないだろうか。不便な中でどうにか適応できるように努力することも求められるのだと思う。もちろん、逆に必要な時にはしっかりと主張してほしい。 これは中国というよりもどこにでも共通することではあると思うが、日本と比較して悪いところを探しに行くくらいなら留学には行かない方がいいのではないだろうか。どのような環境であっても、その中のいいところを探しに行くくらいの気持ちで行く方が得られるものも多いと思うし、なにより自分の心の中の満足度、幸福感が変わってくるように思う。たまにFacebookなどに「これは不満、あれも不満」というような投稿も見かけるが、不満ばかりにとらわれては良いものも見落としてしまうように思う。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
Go Global・中国大使館(ビザ申請)・北京大学教務部など大学関連のサイト(ただし、現在Webシラバスについては外部からは閲覧不可の模様)

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2016年7月3日

東京大学での所属学部・研究科等:	法学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	北京大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
()1.研究職 ()2.専門職(医師・法曹・会計士等) (○)3.公務員 ()4.非営利団体 ()5.民間企業(業界:) ()6.起業 ()7.その他()			

派遣先大学の概要

北京大学。中国国内では清華大学と並ぶトップ大学であり、アジアでもトップの大学である。

留学した動機

・最も大きな理由は、中国という隣国に非常に大きな関心があったため。中国ってなんなんだろう…というワクワク感をずっと感じていた。一方でアメリカなど欧米圏は容易にイメージが湧くし、1年間という時間を過ごす上では想像のつかない環境に身をおきたいと考えた。
 ・また日中関係に大きな関心があり、中国を理解し将来に活かすために留学した。
 ・語学としても、今後の社会では日英二ヶ国語では大きな価値にならないと思い、英語圏以外の留学を望んでいた。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2015年	学部3	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2015年	9月～		2016年	6月
	学部3	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2016年	学部3	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2016年	学部3	年生の	8月頃に	行う予定
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			44	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			12 単位	
	留学後の取得(予定)単位			24 単位	
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2013年	3月入学		2018年	3月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由:					
交換留学への参加が可能となる最も早い時期だったから。					
留学の準備					
①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)					

北京大学の教務課は人によって説明内容がまちまちであり、説明も(日本に比べて)雑なので非常に困る…逆に言えば強く主張すれば融通がきく。北京に着くまではおそらく問題はない(メールを通じて宿舍の予約が行われ、またオンラインで出願が行われ、東大に入学書類が届く。)。北京についてから色々良く分からない点が出てくるので、そこは教務課に出向いて聞くしかなく(メールの返信は基本的にしてくれるが、たまに返ってこない。)、向こうが話したことはメモをして証拠を残した方がいいかもしれない。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

大使館で行うのだが、なんと平日午前の9時-12時しかやっていないので気をつけないと再度出向くハメになる。書類などはウェブからダウンロードも出来るが、向こうで書けばOK。必要書類を確認して持参する。受付は中国式(雑、あとやたら無愛想)なので、ここで中国の洗礼を受けるべし。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

駒場で行うと安い。Webサイトから外国人体格検査記録というファイルをダウンロード出来るらしいので、それを持参して病院(留学用の健康診断ができる特別な病院でないといけない)に持参すればよい。ただ場所によっては高くつくらしい?健康診断が事前予約制だったため僕は時間が間に合わず、中国国内の病院で行ったが、350元くらいかかった。なお、日本で健康診断をしていなかった場合、入学手続きの日に健康診断用の病院の地図を渡され、その場所に行くように告げられる。中国で血液検査を行うのが怖ければ日本で行ったほうが良い。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大に加入させられる保険に入らざるを得なかったが、とても高い。仕方ない。そして1年の留学の場合、日本で保険に入っているようがいまいが北京大学でも二重で保険に加入させられる。金の無駄遣いでしかないのだが、交渉しても規則という点張りでダメだった。業者との癒着を感じた。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

法学部であったが、法学部教務課に入学許可証や作文、北京大学の説明パンフレット等複数の書類を提出した。その後教授との面談がある。(僕の場合は刑法の橋爪教授で、和やかに楽しく行われた。)

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

文系チャイ語選択の一般的なレベルで、TLPでもあったため読み書きは多少できるものの聞き取り・スピーキングはとても厳しい状態だった。HSKは未受験のまま参加した。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

HSK6級を持っておけば学部生の通常授業の単位を取得する資格を得られる。持っていないなくても聴講は可能。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
漢語	6	●	応用統計学	3	●
口語	6	●	亜州史	2	
高級作文	4	●	中国近代史	4	
虚詞	4	●	憲法与行政法	4	
中日関係史	3	●	中国対外関係史	3	

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

前期は対外漢語学院という、北京大学の学部であるのだが外国人向けに中国語の授業を行うという特殊な学部に在籍した。多くの交換留学生はこの学部でまず中国語の授業を履修する。授業の質は非常に高く、中国語のレベルは東大での1年半の学習が何だったのかと思うほど格段に伸び、3ヶ月の学習でHSK6級で8割近く取れるようになった。授業は高校の授業のような感じで、少人数授業で教授と仲良く、宿題・授業・小テスト…と進んでいく。語学の授業なので難易度自体は高くなく、楽しい日々を送っていた。日本人は読み書きが出来るので実力に比して高いレベルのクラスにぶち込まれ、やたらぺらぺらしゃべる欧米人に圧倒されるのだが、その方が一気に伸びるのでなるべく高いクラスに入ったほうがよい。
後期は国際関係学院、歴史学院、政府管理学院の授業を履修した。授業は普段は講義形式、学期に二度ほどディスカッションが入る。宿題はそれなりに重いレポートなど。東大の授業に近い。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

前期は週20コマ(=20時間)、後期は19コマ(=19時間)。前期はそれ以外の時間は基本的に復習と、中国語の自習、中国人のランゲージパートナーを作り話すなどをして時間を過ごしていた。また北京大学のテニス部に加入した。後期は授業の予習・復習、あとはテニスを通じて中国人の知人を大量に作り、テニスをしつつ中国語を使う機会を確保していた。

④学習・研究面でのアドバイス

中国語の学習に重点を置くのであれば、当然であれば日本人とやや距離をおき中国人と積極的に関わることであるが、日本人の方が留学生ならではの情報など有益なことを色々聞けるし、高校から中国の大学にわざわざ進学する人の話もなかなか面白いので、距離を置き過ぎるのももったいない。
交換留学生はみんな言うのだが、意外と中国人の学生と関わる機会が少ない。ランゲージパートナーの制度があるので最初はそれで日本語科の学生と仲良くなるのだが、週に多くて2,3回会える程度なので、それ以外にも積極的に中国人に関わっていかないとなかなか厳しい。僕は幸いテニスがあったので多く機会があったのだが、趣味を上手く活用できるというのではないかと思う。あとはcomiccafeというwechatのアカウントがあり、そのアカウントが日中交流会の情報を多く流しているのが有用。freebirdなど日中交流団体のイベントもなかなかよい。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

中国では英語がほぼ通じないので最初は非常に大変だった。(とはいえ、詰むことはないので大丈夫)語学は本当に自分の頑張り次第だと思う。留学生なのでみんなそれなりに日本人とは関わらないようにするのだが、それでも中国人に対していかに積極的に向かっていけるかで大きな差がつく。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舍の様子、見つけた方法など)

交換留学であれば勺園になると思う。一泊140円で非常に高いのだが、その分待遇は抜群によく、毎日掃除が入り、かつ2015年に出来たばかりなので非常に清潔。二人部屋なのだが、シャワートイレが共用なだけで個室があるので実質一人部屋。ただ高すぎた上に個室はつまらなかった。後期は北京大学万柳公寓という校外の寮に住んだ。一泊45元。なお、大部分の留学生は校内の留学生寮である中関新園に住む。が、勺園の方が綺麗だし便利。お金があるのなら勺園に住むのがいいのでは。なお後期で他の寮に引っ越せる。
☆注意事項 基本的にまとめて支払うことを要求されるので、大量の現金を持っていないと道に彷徨うことになる。120日分の家賃を前払いした。(ルームメイトは交渉の結果月単位の支払いには出来たらしい。)

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

大気汚染は本当にひどい。空気清浄機は買わなかったが、買ったほうが良いと思う。日本製の通常のマスクだと不安なので、現地で空気弁のついたかなりガチなマスクを購入し着用した。(みんなそれをつけている。)
あとは日本に比ベインフラは発展途上感が満載な事を除けば、食事もとてもおいしいし安いし、交通も便利だし非常に快適だった。留学先としては素晴らしいと思う。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

健康管理。それだけが問題だと思う。病院もやや適当なのできちんとした検査は日本で受けた方がよい。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

宿泊費:140元/日(前期) 45元/日(後期)
 朝食:2元ほど ものすごく安い。
 昼食:8-15元
 夕食:10-15元
 その他、テニスコート代や、たまの外出の費用(50-100元)、交通費(地下鉄は3-5元、バスは1元)、カフェ代(珈琲は学内最安値は5元、学外だと17-25元)など
 平均すると60-70元/日+寮費だと思う。

・留学に要した費用総額とその内訳

公務員試験の関係で二回帰国したので飛行機代はかかったが、それを除けば寮費、冬休みの中国周遊費含めて100万円ほど。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

日本学生支援機構の奨学金。月6万円。東大がオファーするものにしたがって、手続きしたもの。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

テニスをひたすらしていた。その御蔭で北京じゅうのテニスコミュニティの学生やおじさんと知り合えたり、中国語の力がついた。
 冬休みは中国の南方をバックパッカーで旅した。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

・対外漢語学院の授業は、総じて質が高い。同級生は外国人しかいないのだが、それでも中国語の力はつく。
 ・後期の本科の授業の履修方法、履修要件などの説明がなく困った。学習面のサポートはメールを通じて行われるが、不明点は多々あったのでその都度聞きに行った。
 ・その他サポートはあまりないのだが、そこまで困ることはない。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

・図書館ではデポジットで500円払わなければ本を借りられない。入館はできる。
 ・空き教室は解放されているので、混んでいる図書館よりも空き教室がおすすめ。光华管理学院は綺麗だしトイレはウォッシュレット付きだしおすすめ。(留学生に人気のトイレ)
 ・テニスコートは20元/時 バドミントンは30元/時(体育館のカードを作ることが必要。持っていればシャワー2元/回が使える。)ジムは行かなかったがそれなりに安く使えるらしい。
 ・インターネットは国内無料、国外のサイトは100円で制限時間無しなのだが、毎回閲覧後にログアウトすれば時間無制限にする必要はないので、10元/月120時間 で使用していた。
 ・食堂は旨い。旨い。全ての食堂を周り食べつくすべし。勺園1楼宫保鸡丁 农园二层烤鱼 燕南麻辣香锅が特においしかった。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

国家公務員の面接で色々使えた。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

<p>外交に関心があるのだが、ストレートで影響した。</p>
<p>③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)</p>
<p>公務員試験を受験しに一時帰国×二回を行った。近いので帰りやすい。</p>
<p>④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください</p>
<p>()1.研究職 ()2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) ()3.公的機関(機関名:) ()4.非営利団体(団体名又は分野:) ()5.民間企業(企業名又は業界:) ()6.起業(分野:) ()7.その他()</p>
<p>留学を振り返って</p>
<p>①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感</p>
<p>1. 語学力はかなり伸びた。特に後期には講義で堅い中国語を、テニスを通じた学生やおじさんたちとのコミュニケーションで口語を身につけ、ネイティブレベルとは行かないまでも華僑に間違われるくらいにはなった。 2. 中国社会に対する理解。中国共産党の統治のあり方を知識のみならず身を持って感じ、理想の社会の形を考える上で大きな糧となった。日中関係・領土問題などについても(日本では得られないような)多くの見識を得た。また中国社会自体に対する理解も進んだ。住むにはとても快適で、活気溢れる良い国であると感じた。 3. 中国人は一般的にかなり主張が強いため、彼らとの生活を通じて「強く」なった。精神的な強さが相当増したと感じる。また環境への適応力もついた。 4. 中国に対する親近感がわいた。留学前は日本人である私と、隣国に住む中国人という認識であったが、現在はアジアの一員である私と、その下層区分としての日本人属性、というような漠然とした認識を得られた。つまり、同じアジア人としての中国人、というような親近感が非常に増した。</p>
<p>②留学後の予定</p>
<p>帰国の翌年に官庁訪問、その翌年の3月に卒業。</p>
<p>③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス</p>
<p>得るものなかった留学、という話を聞かないので、迷っている方はぜひ留学されると良いと思います。</p>
<p>その他</p>
<p>①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物</p>
<p>中国留学経験者のブログなど。GoGlobalのページも定期的にチェックしていました。</p>
<p>②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。</p>

席が足りず、立った状態で食べる北京大学の食堂の写真です。北京の縮図というか、人が多く熱気に溢れ、また合理的であれば周りの目を気にしない人が多いので、この写真はその意味で象徴的かなと思います。



The University of Tokyo Study Abroad/Student Exchange Program Report Form

Date: 10/18/2016

Faculty/Graduate School at UTokyo: Faculty of Arts and Sciences

Year at the time of Study Abroad (e.g. 3rd year/ M1/ D2): 4th year

Program Attended:

Host University: Peking University

Occupation after graduation (intended):

- | | | |
|---------------------------------------|--|---------------------|
| 1. Research | 2. Specialist (Medical • Judiciary • Accountant) | 3. Civil Service |
| 4. NPO | 5. Private sector (Type of industry:) | 6. Entrepreneurship |
| 7. Others (Graduate School Student) | | |

Outline of the receiving institution overseas

Peking University is a prestigious university located in Beijing, China

Reason why you decided to participate

I decided to participate to learn Chinese and get to know Chinese culture.

Period of Study etc.

- (1) Academic status before the program: Completed the 2nd semester of the 2nd year of Undergraduate study in year 2015.
- (2) Status during the program: Study Abroad
- (3) Duration: From 2015 to 2016. Departing in (3) year of Undergraduate in 2015
- (4) Registering for classes on return: Re-registered for classes from (1) semester of the (4) year of Undergraduate in year 2016
- (5) Period of job hunting: Not planning to job hunt
- (6) Number of credits earned before program [14]. Number of credits earned during the program which will be processed for transfer [22]. Number of (expected) credits after program [36]
- (7) Enrolled/Expected timing of graduation: Enrolled: September, 2013. Graduated/completed July, 2017
- (8) Time taken from enrollment to graduating/completion: [3] years [10] months
- (9) Reason for choosing period to study abroad:
I just deemed it most common to go study abroad during the third year.

Preparation for the program

(1) Application process (please give any advice on dealing with the application process)

Paper work, especially the USTEP program may be a bit troublesome if your main campus is in Komaba, since some of the paperwork must be done in hard copy, in which you need to go all the way to Hongo. Otherwise, for the essay, I would say just be honest and be yourself on your intentions of studying abroad. The essay should sound true and genuine.

(2) Visa application (type of visa, where to apply, processing time, any advice on visa application)

I went with a student visa. You usually enter China with a X1 visa, and when you get to China, if you stay for more than a semester, you need to apply for a residence permit. In my case, the Peking University office took care of it for me.

(3) Medical check-ups (health check-ups before departure, inoculations, etc.)

You can choose to have a health check-up before departure. Or else you can also choose to go through a health check up organized by Peking U. There isn't additional charge, and people tell you the instructions during registration.

(4) Insurance (information about insurance for travel/studying abroad purchased)

I was covered by insurance from U Tokyo. Otherwise, if you are staying for more than a semester, you need to buy insurance from PKU as well.

(5) Procedures required by your Faculty/Graduate School (any information about course registration, credits, exams, submission of dissertations etc)

I studied at the School of Chinese as a Second Language. They were just regular language classes. If you want to take different courses, there is an online registration program. Peking U provides mentors on specific dates who will help you to register for different credits.

(6) Language preparation (language level (English, etc.), lessons etc.)

I went there to learn Chinese and I think it wasn't that hard to get used to living there. People are friendly and are willing to help.

(7) Items which should be taken with you from Japan and any other advice on things which should be done before leaving Japan.

For Beijing specifically, the weather gets really cold and sometimes the heating can be bad. I would not have survived without HEATTECH. Maybe taking some common medicine, especially medicine for stomach aches should be good. (Some food in China is not sanitary, so you might get stomach aches)

Information on the academic/research program

(1) Copy of list of subject taken (if classes were taken)

※ Please mark with ● all subject which you are processing to transfer credits to the University of Tokyo

- Chinese Writing I
- Conversational Chinese I
- Chinese Foreign Policy and International Relations
- Chinese Writing III
- Conversational Chinese III
- Intermediate Business Chinese

(2) Outline of the program (Style of the lessons/preparation study/review study, thing which left an impression on you, etc.)

The School of Chinese as a Second Language is a faculty dedicated just for the education of Chinese to foreigners. It is just like a language school where students first take a placement test, and they are placed into a level of class ranging from about #1 to #23. They then take classes according to their level, the higher you go, the more electives you can choose from.

(3) Number of subjects/credits per semester, number of hours of study/research time in a week (including class hours and study out-of-class hours)

20 hours of Chinese language classes a week.

(4) Advice on aspects of academic/research work

Language courses are quite straightforward. Just study things on time, and try and study Chinese outside of the classroom.

(5) Problems experienced with language issues, advice concerning language, etc.

I didn't have many problems with language when I first went to China even though I did not have any advanced Chinese knowledge. As long as you download a Chinese dictionary on your phone and are willing to try and converse with locals, they will be willing to help.

Aspects of life

(1) Accommodation (Type (home-stay, room-sharing etc.), cost, atmosphere/appearance of accommodation, how you found it, etc.)

I rented an apartment outside of the school dormitories.

(2) Living environment (such as climate, environment around the institution, transport facilities, food, managing your money (overseas money transfer, credit cards))

The living environment in China may be quite shocking especially if you're traveling straight from Tokyo. The environment is not so clean and the climate is quite severe. Summer weather goes up to about 38 degrees celsius and winter weather goes down to about -17 degrees celsius. Also, students should be careful when eating, and try to avoid raw food as well as food that is sold in the streets. They tend to be unsanitary and may cause food poisoning.

(3) Aspects of risk and safety management (safety of local region, condition of medical facilities, any action taken in maintaining your mental and physical health, etc.)

Beijing is not the safest city in the world. I personally never had the experience, but some classmates have experience pick pocketing, therefore you should take special care of your wallet and smart phone.

(4) Details of expenses (breakdown of costs, such as airfare, program fees, cost of required books, rent, food, travel cost, money spent on entertainment)

• Monthly living cost and its breakdown

Living cost is definitely much less than Tokyo. I personally would not like to disclose my living costs, but it definitely was less than that of Tokyo.

• Total cost spent on studying abroad and its breakdown

I would not like to disclose this information

(5) Financial aid (if you were receiving financial aid/scholarships, please give the name of the source of the aid, amount, and how you found it, etc.)

N/A

(6) Activities other than academic/research work (sports, cultural, volunteer/internship, weekend activities, etc.)

Most exchange students in Beijing tend to travel to different cities in China during weekends and holidays with exchange friends. There are also some activities that are planned by the International Student Office.

Environment of the receiving institution

(1) Support facilities for students taking part in the program (such as language, academic, living support mechanism and counseling services)

I think the International Student Office is very willing to help out when you have any problems with your life. I personally didn't have any reason to seek for help, but there is an office that helps you out with all processes such as registration and obtaining a student visa.

(2) Facilities (libraries, sports facilities, cafeteria, IT equipment and facilities, etc.)

The gym in Peking Univ. is very accessible and cheap. If you want to book a court for badminton or basketball, that is also available. There are various cafeterias on campus with a wide variety of food. They do not take cash, but only student ID cards that can be charged at the office.

Studying abroad and job hunting

(1) (those that have job hunted) Impact that the your study abroad had on job hunting, merit and demerit

N/A

(2) (those who will be starting job hunting) How the study abroad has impacted your thoughts towards employment

N/A

(3) Actions towards job hunting while studying abroad (if any)

N/A

(4) If you have succeeded in finding a job, please inform us, if agreeable, as much as possible about your job

1. Research 2. Specialist (Medical · Judiciary · Accountant) (position:) 3. Civil Service (name of institution:)

4. NPO (name of organization and field:) 5. Private sector (name of company and industry:)

6. Entrepreneurship (field:) 7. Others ()

Looking back over the program

(1) The significance of the program and how you have developed by taking part in it, any other impression from having studied abroad

I think going abroad really helped me broaden my perspective of how I view the world. Especially my time in China really helped me gain insight into the Chinese people and their lives. I think studying abroad was a breath of fresh air after having spent two years at the University of Tokyo. Studying abroad, not only broadens one's point of view, but also helps students think in a more analytical and critical way. They are also called to respect and accept different ideologies.

(2) Your plans having studied abroad

Previous to studying abroad in China, I would never have considered going to China for job hunting. But as of now, I am open to more countries for job hunting. Also, I would like to continue my language studies.

(3) Any messages or advice for future participants

Just try to make the most out of your time, and do not be scared in making new friends.

Miscellaneous

(1) Websites or publications which were useful while preparing for or during your time overseas

<http://english.pku.edu.cn/Admission/InternationalStudents/>

(2) Please submit any photographs which may be used on the University of Tokyo websites or publications.